技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
５校時 13:15～14:05
学校名　中学校
対　象　第２学年
会　場　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　題材名　「自立した賢い消費者を目指して」（C　消費生活・環境）

２　題材の目標

・　購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解できる。（知識及び技能）

・　売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。（知識及び技能）

・　消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。（知識及び技能）

・　自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。（思考力、判断力、表現力等）

・　よりよい消費生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

３　題材の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ②　売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ③　消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	①　自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定している。 ②　自立した消費者としての消費行動について、課題解決に向け考え、工夫している。 ③　自立した消費者としての消費行動について、実践を評価したり改善したりしている。 ④　自立した消費者としての消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。	①　よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入や、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ②　よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入や、消費者の権利と責任について、課題解決に向けた一連の活動について振り返って改善しようとしている。 ③　よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入や、消費者の権利と責任について、工夫し創造し、実践しようとしている。

4　指導観

⑴　題材観

本題材は、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）第２章　第８節　技術・家庭　（家庭分野）

> C　消費生活・環境
> ⑴　金銭の管理と購入
> ア　次のような知識を身に付けること。
> (ｱ)　購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。
> (ｲ)　売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。
> ⑵　消費者の権利と責任
> ア　消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。
> イ　身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。

を受けて設定した。

ここでは、金銭の管理と購入や消費者の権利と責任について、課題をもって、計画的な金銭管理の必要性について理解し、購入方法や支払い方法の特徴、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、消費者の権利と責任に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、物資・サービスの選択に必要な情報を活用した購入や自立した消費者としての責任ある消費行動について工夫できるようにすることをねらいとしている。

現代社会は、たくさんのものや情報で溢れており、必要な情報を適切に判断する力が求められる。また、「持続可能な社会の構築」の視点から、消費行動が社会や環境に及ぼす影響を理解し、自立した消費者として責任をもった消費行動について考えていく必要がある。

⑵　生徒観

11 月に実施した事前アンケートでは、「自分で購入したものは長く使う」と回答した生徒が 100%であった。周囲に店舗が少なく、すぐに商品が手に入る環境でないため、商品の購入に慎重な生徒が多い。一方、買い物をする場面が少ないため、小遣い帳等で金銭の管理をしている生徒はほぼいない。また、80%以上の生徒が、「通信販売をよく利用する。」と答えており、通信販売で失敗した経験のある生徒もいる。

そこで、生徒にとって身近な無店舗販売を取り上げることで、実生活と結び付けて考えることができるようにする。また、島内では、現金以外での買い物をする機会が少ないため、前払いや三者間契約、金銭の管理に関して、具体的にイメージできるよう、模擬家族を設定し、グループでの課題解決学習を通して、よりよい消費生活に向けて実践していこうとする態度を育んでいきたい。

⑶　教材観

指導に当たっては、小学校での既習事項を踏まえ、自分・家庭から地域・社会へと視野を広げさせていく。また、「Ｂ衣食住の生活」で消費生活・環境の学習内容と結び付けて学習してきたことを振り返り、本題材でさらに深めていけるようにする。そして、学習内容が生徒自身の生活と密接な関わりがあることを意識付けさせるため、さまざまな場面設定を用いながら、実生活で生かせる力を育んでいく。

５　年間指導計画における位置付け

	題材名	時数
第１学期	衣服を選んでコーディネート	５時間
	衣服を長く大切に着るために	９時間
第２学期・第３学期	地域の人々との関わり	４時間
	生活に役立つものを作ろう	８時間
	自立した賢い消費者を目指して	９時間

６　題材の指導計画と評価計画（全９時間）

時間	目標	○学習内容・学習活動	評価規準 （評価方法）
第１時 （本時）	自分の消費生活について振り返り、問題を見いだし、課題を設定することができる。	○　消費生活の仕組みや物資とサービスについての理解と課題設定 ・　消費生活チェックリストやこれまでの経験から、消費生活について振り返り、問題を見いだし、課題を設定する。	イ－①（ポートフォリオ） ウ－①（観察）
第２時	いろいろな購入方法と支払い方法について理解する。	○　店舗販売と無店舗販売の特徴についての理解 ○　前払い、即時払い、後払いの特徴についての理解 ・　クレジットカードを含むカードによる支払い方法について、メリットやデメリットを考える。	ア－①（ワークシート記述の分析、定期考査）
第３時	収支のバランスを図り、計画的な金銭管理ができる。	○　家庭生活に必要な商品と、計画的な金銭管理の重要性についての理解 ・　模擬家族の中で、どのような優先順位で商品を購入すべきか、またその際に家計管理をどうすべきか考える。	ア－①（ワークシート記述の分析）

第４時	情報を適切に収集・整理し、情報を活用して購入について工夫できる。	○　物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 ・　模擬家族が商品を購入するシミュレーションを行い、意見交換を通して、模擬家族に適した商品や購入方法を選択する。	アー②（ワークシートの記述分析） イー②（ワークシート記述の分析）
第５時	消費者被害の背景、予防方法を理解し、望ましい消費行動について工夫できる。	○　消費者被害の現状や、若者に多い事例等についての理解と対応方法の工夫 ・　映像教材やロールプレイングを通し、対応方法について理解する。	アー②（ワークシートの記述分析、定期考査） イー②（観察、ワークシート記述の分析）
第６時	消費者を支える仕組みについて理解できる。	○　契約や消費者を支える機関や法律、クーリング・オフについての理解 ・　買い物の事例を通して消費者を支える仕組みについて考える。	アー②（定期考査、ワークシート記述の分析）
第７時	消費者の権利と責任について理解できる。	○　消費者の権利と責任についての理解 ・　模擬家族での事例を基に、自立した消費者としての行動を具体的に考える。	アー③（ワークシート記述の分析）
第８時	自立した賢い消費者として「マイルール」を作成し、課題解決に向け工夫できる。	○　自立した賢い消費者としての「マイルール」の作成 ・　課題解決に向け、自立した賢い消費者になるための「マイルール」を基に、模擬家族の課題について考える。	イー③（ワークシート記述の分析） ウー②（観察、ワークシート記述の分析）
第９時	自立した賢い消費者として責任ある消費行動を考え、実践することができる。	○　消費行動についてのまとめ ・　模擬家族の課題の解決方法について発表し合い、「マイルール」を修正する。 ・　題材を振り返り、振り返りカードにまとめる。	イー④（ワークシート記述の分析） ウー③（ポートフォリオ記述の分析）

７　指導に当たって

班テーマ　児童・生徒の実践的な態度を養う題材設定の工夫

・　グループで課題に取り組ませることで、意見を共有して、多角的に考えたり、考えを明確にしたりするなど、対話的な学びになるようにする。また、グループ学習の後、個人で考え直す時間を取ることで、考えが深まるようにする。

・　掲示やＩＣＴ機器を活用することで、視覚的に理解を深めることができるようにする。
・　毎時間の目標と学習の流れを掲示し、振り返りを行うことで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
・　題材の始めに自分の生活について振り返らせ、課題設定を行い、課題を基に学習していくことで、学習内容と実生活を結び付け、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにする。
・　生徒の家庭状況に配慮し、模擬家族を設定し、身に付けた知識・技能を活用する活動を行うことで、実践的な態度を育めるようにする。

８　本時（全９時間中の第１時）

⑴　本時の目標

自分の消費生活について振り返り、問題を見いだし、課題を設定することができる。

⑵　本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 10 分	○　事前アンケート「買い物の失敗」の紹介 ○「消費生活」のしくみの理解 ・「消費」とは何かを教科書の「消費生活のしくみ」を見ながら確認する。 ○「自立した賢い消費者」とは何かを考える。 ・自分の考える「自立した賢い消費者」について振り返りカードに記入し、意見交流をする。 ○　本時の目標と流れの確認	・　収入は限られている一方、その金銭の使い方で失敗していることを理解することで自分の事として学習を進められるようにする。 ・　小学校での既習事項を振り返らせる。（買い物の仕組み、物や金銭の計画的な使い方など） ・　「自立」、「消費者」等の言葉の意味を押さえ、国の掲げる「自立した消費者」の意味を紹介する。 ・　題材の最初と最後に同じ問いをすることで、変容を見取れるようにする。 （振り返りカード）	
目標：自分の消費生活について振り返り、問題を見いだし、課題を設定することができる。			
展開① 15 分	○　買い物シミュレーション ・　通信販売の買い物シミュレーションを通し、何を重視して商品を購入しているか考える。 【個人】 ・　自分ならどの商品を選ぶか、理由	・　資料は生徒用タブレットＰＣに掲示する。 ・　価格、品質・安全性・機能、保証・アフターサービス、環境への影響などの中から選ばせ、理由を書かせる。	

	とともに考える。 【グループ】 ・　選んだ商品とその理由を発表し合う。 【個人】 ・　商品が届いたら、思っていたものと違っていた場合にどうするか考える。	・　購入後にどのような行動をしているか考えさせる。 （捨てる、仕方なく使う、あげる、返品する、企業に問い合わせる等）	
展開② 15 分	○　中学生の消費行動と、事前アンケートの結果の振り返り。 ・　事前アンケートの結果グラフを見て、自分の消費生活について気付くことをまとめる。 ○　自立した賢い消費者になるためにどのようなことを学べばよいか、見通しをもつ。 ・　タブレットＰＣを用い、必要な知識や・技能を書き出す。	・　自分の消費生活の問題点に気付かせる。 （自分の使ったお金を管理できていない、通信販売での失敗が多いなど。） ・　内地と新島での消費生活の違いをイメージさせる。 ・　これからの学習の見通しをもたせる。 ・　出た意見の中から、「知りたいこと・できるようになりたいこと」を見付けさせる。	ウ－① よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入や、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 （観察）
まとめ 10 分	○　個人の学習課題の設定 ・　個人の学習課題とその理由を発表する。 ○　本時の振り返り	・　自分の消費生活の問題点やタブレットＰＣの「知りたいこと・できるようになりたいこと」を参考に、理由も記入させる。 ・　ポートフォリオに記入させ、毎時間意識できるようにする。	イ－① 【Ａ】自分の消費行動を通信販売や店舗販売、金銭の管理など複数の問題と関連付け、生活を振り返り、具体的に問題を見いだし課題を設定できている。 【Ｂ】自分の消費生活を振り返り、問題を見いだし具体的な例を挙げて、課題を設定できている。 （ポートフォリオの記述の分析）

⑶　板書計画

目標
自分の消費生活について振り返り、問題を見いだし、課題を設定することができる。
流れ
①　消費生活とは？
②　買い物シミュレーション
③　アンケートより
④　課題設定

○「自立した賢い消費者」とは？

・　責任をもって買い物ができる人
・　使うときのことや、使い終わった後のことを考え、商品を購入できる人
・　人の手助けを受けずに、商品を購入し、使える人。



○　事前アンケートから気付くこと
・　通信販売での失敗が多い。
・　買った後のことを考えずに買ってしまうことが多い。
・　どのくらいお金を使ったか管理できていない。

⑷　授業観察の視点

・　生徒への指示・説明は明確であったか。
・　主体的な学びを促し、実践的な態度を育むために、本時の学習内容はふさわしかったか。
・　本時の目標を達成するために、ＩＣＴ機器の活用やグループ活動は有効であったか。